

■ 苫小牧港西港区真古舞地区 国際物流ターミナル 整備事業に着手しました

北海道開発局 室蘭開発建設部

我が国初の大規模掘り込み港湾である苫小牧西港区は、全国各地とのフェリーやRORO船による国内定期航路ネットワークが形成され、国内貨物の取扱量は全国1位になっているほか、周辺に多数立地する製造業の原材料の受入や製品等の積み出し基地として、北海道の基幹産業を支えています。

しかし、港内には多目的に利用できる公共岸壁が不足しているため、特に真古舞地区中央北ふ頭では、鋼材、飼肥料等の貨物船が集中し、岸壁の混雑が深刻な状況にありました。この課題を解決するため、未利用

となっている旧貯木場水面を埋め立て、水深12mの岸壁を新たに整備することとし、本格的な工事に着手しました。

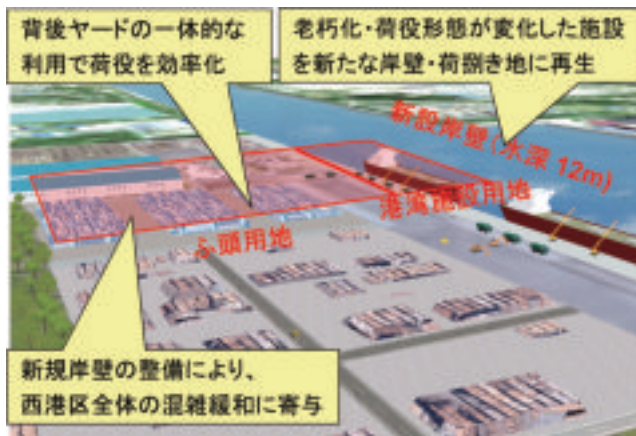
11月9日(土)に苫小牧市内のハーバーFビルにおいて、「苫小牧港西港区真古舞地区国際物流ターミナル整備事業」の着工式典を苫小牧港管理組合と北海道開発局室蘭開発建設部の主催により開催しました。式典には国会議員、関係自治体や関係団体など約70名の方が出席しました。

式典では、主催者である岩倉博文苫小牧市長から「西港区の公共ふ頭では港内の混雑が恒常化し、年間8,000時間を超える滞船が発生しており、特に混雑している中央北ふ頭が利用できない場合は、他の公共ふ頭を利用せざるを得ず、大変非効率な荷役作業が強いられていた。本事業により、西港区内の公共ふ頭利用の再編が可能となり、沖待ちや滞船が改善され、更なる産業競争力の強化を期待している」との挨拶がありました。

その後、多数の来賓挨拶、祝電披露があり、続いて事業概要報告及びくす玉披露を行うとともに、工事箇所現地視察会を開催しました。



式典の状況 (くす玉開披)



整備後のイメージ図



挨拶する岩倉苫小牧市長